

日本鉄鋼協会記事

33年度第4回評議員会 日時：2月24日、場所：協会々議室。出席者：菊田評議員ほか121名（委任状とも）

議事：Ⅰ. 昭和33年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件。Ⅱ. 昭和34年度事業計画ならびに収支予算の件。Ⅲ. 改選理事、監事ならびに評議員候補者推薦の件。Ⅳ. 桂弁三、小島新一両氏を名誉会員に推挙の件—以上いずれも原案の通り承認可決した。

33年度第11回理事会 日時：2月26日。場所：協会々議室。出席者：塩沢会長ほか19名。

報告事項：Ⅰ. 編集委員会の件。Ⅱ. 企画委員会の件。Ⅲ. 秋季大会に関する件。Ⅳ. ゼドラチェック氏弔慰金に関する件。

協議事項：Ⅰ. 桂弁三、小島新一両氏を名誉会員に推挙の件。Ⅱ. 次期理事、監事および評議員候補者推薦の件。Ⅲ. 昭和33年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件。Ⅳ. 昭和34年度事業計画ならびに収支予算の件。Ⅴ. 表彰者決定の件。Ⅵ. 関西支部規則変更、役員選任、事業報告および決算報告の件。Ⅶ. 日本溶接会議改組に関する件。Ⅷ. 腐蝕防蝕討論会参加の件。Ⅸ. 第3回材料試験連合講演会参加の件。Ⅹ. 1月中および2月中（予想）収支決算の件。Ⅺ. 1月中入退会その他会員異動の件—以上いずれも原案通り承認可決。

34年度第1回理事会 日時：3月19日。場所：協会々議室。出席者：塩沢会長ほか13名。

報告事項：Ⅰ. ベイン氏病気見舞の件その他。Ⅱ. 編集委員会の件。

協議事項：Ⅰ. 春季大会に関する件—総会および特別講演会の司会者、敬老会招待者を決定。Ⅱ. 支部長会議開催の件—4月3日午後5時半、協会々議室において開催のことに決定。Ⅲ. 特別資金による事業実施に関する件—原案の一部修正を加え決定。Ⅳ. 日本溶接会議改組に関する件—保留。Ⅴ. 2月中収支決算の件—承認。Ⅵ. 2月中入退会その他会員異動の件—承認。

33年度第12回編集委員会 日時：2月18日。場所：協会々議室。出席者：佐藤理事ほか19名。

報告事項：会誌2月号完成および3月号完成予定の件。

協議事項：Ⅰ. 会誌5月号原稿選定の件—選定済み。Ⅱ. 「コークス炉の加熱作業について」を技術資料に採用の件—承認。Ⅲ. 依頼論文選定の件—選定済み。Ⅳ. 特集号に関する件—特集が可能であるか否かを検討、引続き研究のことゝす。Ⅴ. 俵賞受賞候補者選定の件—「実用特殊鋼の炭化物の電解分離による研究」寄稿者を推薦のことに決定。Ⅶ. 会誌3月号校正刷分担検閲の件。Ⅷ. 見学会役員選定の件—選定済み。Ⅷ. アブストラクト No. 7 口絵選定の件—選定済み。Ⅸ. 会誌交換寄贈の件。Ⅹ. 渡辺資金による懸賞論文題目に関する件—原案（わが国の鉄鋼業に関する技術開発の方策）を承認。

34年度第1回編集委員会 日時：3月24日。場所：協会々議室。出席者：佐藤理事ほか12名。

報告事項：会誌3月号完成および4月号完成予定の件。

協議事項：Ⅰ. 会誌6月号原稿選定の件—次回選定のこと。Ⅱ. ソ連文献に関する件—要訳原稿を抄録として取扱うこと。Ⅲ. アブストラクト No. 8 編集の件—協会の歴史、鉄鋼技術共同研究会の活動、特許関係などを掲載すること。Ⅳ. 技術資料に関する件—題目を選定、執筆依頼のこと。Ⅴ. 掲載論文に関する件—依頼論文の寄稿を促進すること。Ⅵ. 特集号刊行にする件—引続き研究のこと。

東北支部 日本金属学会と共催で、3月6日東北大学工学部において、東北地方講演会を開催、下記プログラムのとおり講演がおこなわれた。（○印講演者、*講演要旨を6月号に掲載の予定）

開会の辞

（特別講演）最近の鉄鋼技術の動向

- | | | |
|-------------------------|---------|-------------------|
| * 1. 高温における鉄鉱石の軟化性状について | 選鉱製錬研究所 | 西田 信直・○笹島礼次郎 |
| * 2. 熔鉄の炉外脱硫について | 日曹製鋼 | 城野 忠夫・○大津 芳雄・竹内 隆 |
| 3. Fe-Si-C-O系の平衡について | 金属材料研究所 | ○和田 次康・本間 正雄 |
| 4. 川鉄クルップレン工場成績について | | 川崎製鉄 小林 英一 |
| 5. 金属 Si 炉内反応生成物 | 東邦電化 | ○森本 勲・寺戸 史郎 |
| 6. Si 定量法の検討 | 同 | 藤井 徹○室井俊一郎 |
| 7. 金属ペローの研究（第1報） | 本山製作所 | ○青山富三男・藤田 昭夫 |
| 8. 金属ペローの研究（第2報） | 同 | 同 |
| 9. 製鋼の自動制御 | 同 | ○本山 秀夫・菅野 耕肅 |
| 10. 焼戻した炭素鋼の焼鈍硬化（幻灯） | 山形大学工学部 | 高橋 清治・西野 知良 |
| 11. 鋼材の水素吸収 | 東北特殊鋼 | ○馬島 梓・岩佐 俊雄・杉内 昭之 |
| 12. 快削ステンレスの研究 | 同 | 藤代 大・○大原正志郎・大沼 光輝 |
| 13. ダイス鋼の硬度値 | 東洋刃物 | 樋渡 通・佐藤 清夫・○阿部 貢 |

14. ステライト熔着の研究 同 ○小山 典夫・佐藤 茂・佐藤 朝夫
 15. フープ硬さ測定による加工材の方向性 山形大学工学部 ○高橋 壮治・西野 知良
 16. Si 保温剤の研究 東北特殊鋼 ○藤代 大・佐藤 宏・斎藤 栄増
 17. 27-Cr 鑄鉄に関する 2, 3 の実験 福島製鋼 ○渡辺 紀夫・木村 久・高橋寅之助
 18. 2 方向性珪素鋼板について 東北金属 ○佐伯 伸・熊井 昭行・中山 潔・鈴木 貞朝
 19. 真空熔解による Fe-Ni 合金の磁気特性 同 ○桑島勝男・斎藤 亮・山崎英男・佐藤武雄
 20. 真空熔解による高合金鋼について 同 ○中村幸二・森松安治・金山重信・大田憲治

関西支部 1月26日支部総会を開き、支部規則改正の件を議決し、また支部役員を選任した。
 改正された支部規則、および新任役員はつぎの通りである。

日本鉄鋼協会関西支部規則

- 第1条 当支部は、社団法人日本鉄鋼協会関西支部（以下単に支部という）と称する。
 第2条 支部事務所は、これを京阪神地区におく。
 第3条 支部会員は京都府、大阪府、兵庫県およびこれに近接する地方に在住する社団法人日本鉄鋼協会会員とする。
 第4条 支部につぎの役員をおく。
 支部長、支部常任理事、支部理事、支部評議員、支部会計監事、支部幹事。
 支部評議員は125名以内、支部会計監事は2名として支部正会員の互選をもつて定める。
 支部理事は13名以内とし、支部評議員の互選をもつて定める。
 支部長および支部常任理事は支部理事の互選をもつて定める。
 支部幹事は若干名とし、支部正会員中より支部長が委嘱する。
 第5条 支部長は支部を代表し会務を総理する。支部長に事故あるときは、支部常任理事が代理する。
 第6条 支部長、支部理事、支部会計監事および支部評議員の任期は2年、支部常任理事および支部幹事の任期は1年とする。
 第7条 支部理事および支部会計監事はたがいに兼任することは出来ない。
 第8条 支部理事、支部会計監事および支部評議員は毎年その半数を改選する。ただし重任を妨げない。
 第9条 前支部長は支部理事会および支部評議員会に出席して意見をのべ、かつ決議に加わることができる。
 第10条 支部の事業はつぎの通りとする。
 1. 講演会および研究会の開催 2. 見学会の開催 3. その他適当と認められる事業
 第11条 支部の事業を遂行するため、支部理事会、支部評議員会および支部総会を開催する。
 支部総会は各年度の予算、決算、事業計画その他必要な事項につき決議をおこなう。
 支部総会は毎年1回1月に、支部理事会、支部評議員会および支部臨時総会は必要に応じ、随時支部長が招集する。
 第12条 支部評議員会および支部総会の議決は出席会員の過半数による。
 支部理事会の議決は出席者の過半数による。
 第13条 支部評議員会および支部総会の決議は社団法人日本鉄鋼協会会長の承認を得なければならない。
 第14条 支部の事業年度は暦年によるものとする。
 第15条 支部の経費は寄付金および社団法人日本鉄鋼協会の交付金をもつてあてる。
 第16条 この規則の変更は、支部総会の決議および社団法人日本鉄鋼協会会長の承認を得なければならない。

昭和 34 年度 日本鉄鋼協会関西支部役員

- 支部長 広田 寿一
 支部常任理事 茨木 正雄
 支部理事 葛原 義雄、西岡多三郎、広田 寿一、今井 光雄、高尾善一郎、此口重克（以上任期1年）
 山本 信公、河合 正雄、堀田 正之、足立 彰、森田 志郎、茨木 正雄、上村 勝二、
 （以上任期2年）
 支部評議員 船坂 渡、菅野 猛、小島 義正、岩瀬 慶三、藤井 寛、住友 元夫、盛 利貞、
 三谷 裕康、角尾 敏彦、西村 秀雄、○吉岡正三、浅田 長平、高木 秀夫、高瀬 孝夫、
 菅蒲 正俊、松川 達夫、広田 寿一、高尾善一郎、多賀谷正義、石部 功、外島 健吉、
 杉沢 英男、○平方淳一、今井 光雄、中島 道文、下山田正俊、渡辺富美夫、小田原大造、
 竹中 哲哉、山下 章、葛 誠四郎、此口 重克、大畑宇治郎、井上 利之、横田 礼三、
 上野建二郎、葛原 義雄、芹沢 正雄、岡村 正家、山内 俊平、奥村 福次、塚本 成一、
 粉生 宗幸、箕田 貫一、森田 茂治、高橋哲四郎、武内 武夫、吉田清三郎、森崎 晟、
 中山 育雄、西岡多三郎、堀切 政康、山野上重喜、阿部富美夫、金丸 陟章、四本 潔、
 （以上任期1年）
 久島亥三雄、篠田 軍二、小出 秋彦、森田 志郎、茨木 正雄、小田 助男、村上陽太郎、

河合 正雄, 酒井 佐敏, 沢村 宏, 齋藤 省三, 俵 隆治, 津田 昌利, 川端 駿吾,
 山本 信公, 足立 彰, 藤田 忠男, 江塚 保, 美馬源次郎, 福島 政治, 菅野 五郎,
 横山 義明, 藤本 一郎, 守屋 重蔵, 長野 金城, 西山弥太郎, 谷口 光平, 田中 勘七,
 秋山 二郎, 上村 勝二, 間忠 誼, 秋本 寅一, 荒木 透, 井上 友喜, 太田 久男,
 浜田 正信, 上田 善夫, 香春三樹次, 松室 潤生, 鶴野 達二, 遠藤 鉄夫, 町永 三郎,
 吉田 豊, 穂坂徳四郎, 荻野 一, 川口 壮吉, 楠瀬 四郎, 寺井 修一, 武藤 千秋,
 高石 義雄, 蜂谷 茂雄, 田中 徳松, 田熊 亀三, 馬場 狂介, 堀田 正之, 吉弘 良夫,
 (以上任期2年)

支部会計監事 小久保定次郎 (任期1年) 荒木 透 (任期2年)

支部幹事 岡本 平

中国四国支部 日本金属学会中国四国支部と連合の下に、さる2月27、28の両日、広島市宝町広島県業業会館において第4回講演大会を開催した。当日おこなわれた鉄鋼協会関係の講演はつぎのとおりである。(○印講演者。講演概要は6月号会誌に掲載の予定)

挨拶

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1. 鋼のサブゼロによる安定化处理の研究 | 中国四国支部長 瀬尾喜代三 |
| 2. エンリッチガスとして天然ガスを使用した場合のガス滲炭について | 東洋工業 ○佐藤琢男・藤田繁登
川崎 茂・○松井 啓 |
| 3. ダイカスト用型鋼 Cr-Mo-V 鋼の素延および据込せる太物材の機械的性質について | 日立金属工業 小柴定雄・○稲田朝雄
淀川製鋼 柳沢雅男・○加藤忠克 |
| 4. ホットストリップコイルの加工度と酸洗性について | 八幡製鉄 平野和彦 |
| 5. 線材の引抜性について | 東洋鋼鉄 宮本 安 |
| 6. NF式の粗度計による平滑度の測定 | |
| 7. DCI (球状黒鉛鑄鉄)の各種 Mg 添加合金による球状化性能について | 住友機械工業 松本 稔
帝国製鉄 保本 保 |
| 8. ペレット製造時におけるドラム中のボールの力学的運動について | 土佐電気製鋼 大津 修 |
| 9. 塩基性電炉操業における CaC ₂ の使用について (脱酸におよぼす効果) | 宇部興産 原田良夫 |
| 10. 酸状電気炉の炉床の珪石煉瓦を使用した結果について | 日亜製鋼 ○山本大作・藤岡外喜夫・滝沢昭一・松倉隆 |
| 11. 塩基性平炉精錬の熔鋼中酸素量について | 黒崎窯業常務取締役 高良義郎 |
- (特別講演) 最近の耐火煉瓦技術に関する諸問題
- 名誉会員の推挙 桂弁三, 小島新一両氏は4月2日新たに名誉会員に推挙せられました。

会員の逝去 名誉会員, 評議員川上義弘氏には3月22日, 賛助会員井上匡四郎氏には3月19日, 正会員小川芳樹氏には3月25日それぞれ病逝せられました。謹んで弔意を表します。